

千波湖の渡り鳥を調べました

～第10回千波湖環境学習会～

第10回目の千波湖環境学習会は、1月21日に「千波湖の渡り鳥を調べよう」をテーマに開催しました。当日は朝から雨模様で、観察は難しいと思われましたが、受付開始の12時30分からは雨も弱まり、16名の参加者は、親水デッキに設営したテントの中から野鳥を観察することができました。

今回の学習会では、講師を日本野鳥の会会員の飛田憲一先生、角谷清臣先生にお願いしました。最初に、講師から注意事項として、太陽を見てはいけないことや人を見ないこと、さらに使用方法について、ピントの合わせ方や眼鏡を着用した状態での観察方法の説明があり、参加者は各々で双眼鏡を使いこなせるよう実践していました。それまでの雨の影響で、カモ類の姿は少なかったものの、オナガガモやヒドリガモなどが親水デッキの周りに集まっており、間近で観察できました。それ以外にも、カンムリカイツブリやオオバン、



双眼鏡の使い方を学ぶ様子

浮島周辺に集まるカワウやユリカモメなど様々な種類の野鳥を確認できました。

講師からは、それぞれの特徴やカモ類は尾羽の形状で水にもぐって採餌する種と水面で植物などを主に採餌する種が分かること、ハクチョウはくちばしの黄色の部分の違いからオオハクチョウとコハクチョウ、コブハクチョウを区別することができること、カルガモが夏の間も池に残って見られ続けることから「夏留鴨」と呼ばれるようになった説など、分かりやすい説明をしていただきました。参加者は、千波湖遊歩道周辺で、双眼鏡で野鳥を探すのに苦労しながらも、ハクセキレイやカワラバトを観察し、興味深く講師の説明を聞いていました。

また、遊歩道沿いに植栽された桜の木にはヤドリギが生えており、ヤドリギを好む冬鳥、レンジャクについての説明もしていただきました。

観察終了後、確認することのできた鳥の種類のとめを行いました。今回は雨の中での観察会でしたが、11種の鳥を見ることができました。

最後に、参加者から講師へお礼の挨拶をして、参加者にアルコール消毒液やお菓子を配り、学習会を終了しました。



親水デッキからの野鳥観察

今回、提供品等ご協力をいただきました、ありがとうございます。

講師：飛田憲一先生、角谷清臣先生

消毒スプレー：花王株式会社鹿島工場様、お菓子：東部燃焼株式会社様